

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価
 < C 票 > 第三者評価結果 【国際学研究科】

教育研究目標 1

1. 6 年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係性 （※ 6 年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3 名	左記を選択した理由： ・ 「国際学研究科の継続的な発展」とい目標に対して、「前期課程は毎年度安定した数の学生が入学し、できるだけ 2 年間で修了する」ということが 6 年後のめざす姿なのですから、具体的です。（評価者 A） ・ 修了者の就学先を明記している。（評価者 B） ・ 明確な目標と思われます。（評価者 C）
「具体的でない」 0 名	左記を選択した理由：
その他気づいた点：	
6 年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された 6 年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	< 評価者からのコメント > ・ 問題ないと思われます。（評価者 A） ・ 妥当で適切です。（評価者 B） ・ 客観的にみて妥当と思われます。（評価者 C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	< 評価者からのコメント > ・ 指標自体は妥当だと思われませんが、それが年度ごとの目標値に反映されていません。（評価者 A） ・ 妥当です。（評価者 B） ・ 具体的で妥当。（評価者 C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	< 評価者からのコメント > ・ 2017 年度から 2020 年度までの計画がありません。（評価者 A） ・ 妥当です。（評価者 B） ・ 16～21 まで、空白の部分も出来るだけ記入することが期待されます。（評価者 C）

教育研究目標 2

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	<u>左記を選択した理由：</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「国際的課題に取り組む研究者の育成」とい目標に対して、「大学・研究機関・行政機関・企業において調査研究職に就かせる」ということが6年後のめざす姿なのであるから、具体的です。（評価者A） ・ 調査研究職と限定され、年度毎の数値目標が設定されている。（評価者B） ・ まず博士号取得者の確保することを目指すものであるため。（評価者C）
「具体的でない」 0名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題ないと思われます。（評価者A） ・ 目標設定の背景、課題、現状分析からみて堅実で客観的には適切ですが、意欲性に欠ける嫌いもあります。（評価者B） ・ 客観的にみて妥当と思われます。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妥当だと思われます。（評価者A） ・ 妥当です。（評価者B） ・ 妥当（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度ごとの目標値として、後期課程入学者数が毎年度記載されていません。入学者がいないと、修了者も出ません。2019.2020年度については修了者、入学者の目標値がないということでしょうか。「学年が途切らせない（在籍者ゼロの学年を作らない）ことが伝統を醸成していくために不可欠である」と記してもいます。（評価者A） ・ 完成年度を願慮すれば適切です。（評価者B） ・ 空白の年度も記入されることが期待されます。（評価者C）